



上/「シーギリヤ・ロック」で記念撮影  
中/子供たちの笑顔こそが観光資源  
下/世界文化遺産「ポロンナルワ遺跡」

上/ロックからの眺めは言葉を失うほど  
中/ホテルインスペクションの様子  
下/ダンブッラ石窟寺院の涅槃仏

## 観光資源豊かな スリランカ

### 海外研修旅行を実施

トラベル懇話会は、2013年10月24日から28日の5日間、スリランカ研修旅行を実施した。団長を務めたのはパシフィック・リゾートの島田恭輔社長。会員と会員会社の社員14人が参加した。

### 観光資源豊かなスリランカ

ルートは、ネコンボ・ビーチリゾート滞在を皮切りに、ピンナワラ象の孤児院→天空の宮殿、シーギリヤ・ロック（世界遺産）＝シーギリヤ泊。古都・ポロンナルワ遺跡（世界遺産）、希望者にはアーユルベータ体験→ダンブッラ石窟寺院（世界遺産）＝キャンディ泊。古都・キャンディ（世界遺産）観光、仏歯寺、マーケット観光など→スパイス・ガーデン→紅茶工場見学→コロンボ観光&ショッピングを巡った。行程中、宿泊ホテルのほか、ランチを兼ねた各地のホテル・インスペクションもプログラムに織り込まれた。

インド洋に浮かぶ涙の形をした島・スリランカは、「光り輝く島」という意味がある。太陽、宝石、宗教心、移動する間に見える風景は、緑豊かである。二毛作の田植えの時期で、美しい亜熱帯の自然が車窓を流れてゆく。ベテランの日本語

ガイド、チンタさんがスリランカの国や社会や生活の知識を交えて話をしてくれる。信号はコロンボ以外ではほとんど見かけない。早寝早起きの人々の暮らしが垣間見える。皆表情は明るく、とても親日的で、笑顔であふれ、学生や子供たちと写真と一緒に撮る場面もたびたびあった。

この国の人々の優しさと笑顔こそが、スリランカの最も魅力的な観光資源ではないか、と思った

### 世界遺産の史跡や自然保護区

日本からのグループの旅は、世界遺産を巡るルートが中心で、3泊5日か6泊8日が主流である。どこも期待以上の素晴らしさが、旅を満足度の高いものにする。観光名所ナンバーワンの世界遺産、天空の宮殿「シーギリヤ・ロック」は絶景で、「ここを見るだけでもスリランカへ来る価値がある」との感想を複数のメンバーが口にしていた。喜寿を迎えるも日ごろの鍛えた脚力を誇る横溝明雄名誉会員をはじめ、メンバー全員元気に頂上まで登り、夢のような景色をこころに刻んだ。

スリランカは内戦が続いていた時期は、日本からの旅行者数は伸び悩んでいたが、現在は大きく旅行者数を増やしている。成熟した日本の海外旅行市場において、成長が期待できる、貴重なデステイネーションであるといえる。空港の荷物のターンテーブルに、往きも帰りもサーフボードがいくつも出てきたが、サーフィンのメッカであるヒッカドウワを目指す若者も少なくない。

### 日本市場拡大への取り組み

現地旅行会社ジェットウイングのシロマル・クーレーCEOは、「これからは、欧州の旅行者のように日本人のFIT客が増加していくだろう」と述べた。同社の橋迫恵日本代表によれば、ヨーロッパの旅行者はFITが主流で、小グループ、家族、カップルまで長期滞在しながら、セダンやバンをチャーターして移動している。スリランカの人件費コストは、欧米諸国と比べるとかなり手軽な価格なので、自分の興味や体調に合わせて旅のスケジュールが組めるチャーターをすることがお薦めとのこと。

参加メンバーからは、「個人客のための企画造成を考えたい。後発なので、独自のものをプラスアルファすることが重要だと思う。アーユルベータ体験も最高でした。」（木村晃子シイ・エイ・エヌ社長）など、企画開発に関するコメントがあった。

文/西川敏晴：前「地球の歩き方」代表  
写真/小山文宏：トラベル・エボリューション社長、守家昌史：トラベルロード社長